

家庭でしつけよう

新入学(園)児の交通安全



三月——もうすぐ新学期です。

新入学(園)児をおもちのご家庭では、期待に胸をふくらませながら、何かと準備にお忙しいことでしょう。

入学準備のなかで、忘れてはならないのが、お子さんに対する交通安全教育です。

これまで比較的、家の近所で遊んでいた子供たちも、通学(園)するようになると、行動範囲がグンと広がります。

行き帰りはもとより、新しい友達の家に遊びに行ったり、ここで気をつけなければなら

ないのが交通事故です。

お子さんへの交通安全教育は、家庭での「しつけ」の一つとして、ぜひ実行して下さい。お子さんを交通事故から守るために——。



これが子供だ!

大人とは違う行動パターン

子供は、大人には考えられないような行動に出ることがよくあります。交通事故から子供の生命を守るには、子供特有の行動パターンを理解することが大切です。一般的な子供の行動特性としては、次のようなことが挙げられます。

手を挙げるとクルマは必ず止まってくれる——といったように物事を単純にしか理解できないところがある

車は急には止まれません。手を挙げて道路を渡るように

よしあしにかかわらず、大人や年上の子のマネをする



大人が、黄信号なのに走って渡ったりすると、子供はマネをします。大人のルール違反は子供の交通安全のしつけに良くない影響を与えます。

一つのことばに夢中になると周囲のことが目に入らなくなる



教えると、子供は「手を挙げれば車はすべて止まってくれる」と単純に思い込みがちになります。

子供が正しく理解できるように、教え方にも注意を払いまししょう。

物陰で遊ぶ傾向がある



子供は、自動車のそばやダンボール箱の中に入って遊んだりすることが好きです。物陰などで遊ぶと、運転者などが気づかないことが多いのでたいへん危険です。

お母さんが道路の反対側にいるのを見ついたり、遊んでいたボールなどが車道にころがっていたりすると、車の通るのも忘れて走り出てしまうことがあります。

「危ないよ」「注意してね」といった抽象的な言葉ではよく理解できない



飛び出しはなぜ危ないか止まっている自動車の下や後ろで遊ぶのがどうして危険なのか、言葉で注意するだけでなく、具体的に「現場」で教えます。

一応の交通ルールは理解できても、応用動作ができないことが多い

いつもの通学路では信号をきちんと守り、横断歩道を正しく渡れても、別の道路ではそれができないことが多い。